



# 胃カメラ(内視鏡検査)の すすめ

この冊子を手に入れている皆さま、仕事・家事・介護で日々忙しく、なかなかご自分の健康状態を振り返る暇もないといった方も多いかと存じます。胸やけ、腹痛、もたれ感があってもつい我慢して生活してはいませんか?本当にひどくなってからでは大変です。

私がこの病院に赴任して1年になりますが、この間に吐血や下血(黒い便)で入院した出血性胃潰瘍の患者さまを十数人ほど診察しました。40代から60代の壮年の働き盛りで「病院で検査している余裕はない。寝てればすぐに治る。」と我慢していた方が多かったです。中には出血性ショックをおこし、治療が遅れば生命の危険もある人もいました。

入院治療となる前に胃潰瘍は治してしましましょう。当院では、朝なにも飲まない・食べないで来院した方なら、予約状況によりますが、来院当日に胃カメラを実施できます。ぜひ受付で聞いてみてください。

胃カメラと聞くと「あんな、太くてかたいもの飲み込めない。」「歯を磨いただけでオエッとくる。」「以前に口からの胃カメラを受けたけれど、とても苦しかった。」といった方でも朗報があります。



当院で4月から導入された鼻から挿入する経鼻内視鏡は径が約6mmと細く、スコープが舌を圧迫しないため(舌根部に触れて生じる咽頭反射がおきない)、安全で苦痛の少ない検査が可能です。検査中に話すことも可能なのです。

ところで近年ピロリ菌が胃潰瘍の最大の原因である事がわかってきました。胃潰瘍を繰り返す人はピロリ菌に感染している可能性が高く、内服薬での除菌(殺菌)が必要です。当院ではピロリ菌の感染診断も行っており、尿や口から吐く息(呼気)を採って調べたり、内視鏡施行中に胃の組織を微量に採取して判定しています。胃潰瘍が心配な方は医師に相談してみてください。

# 放射線ってどんなもの?

「放射線」と聞くとどんな事を思い浮かべますか?

「ガンになる?」「体に悪い?」「形態異常(奇形)児が生まれる?」

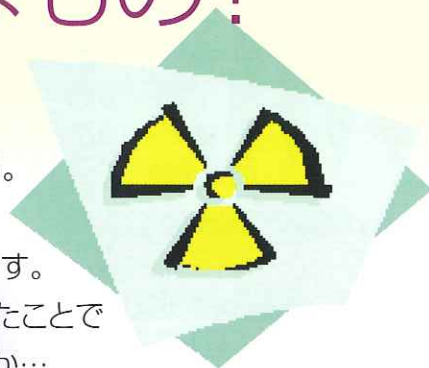
ほとんどの人は放射線について良いイメージは持っていないでしょう。

放射線って、そんなに怖いものなんですか?

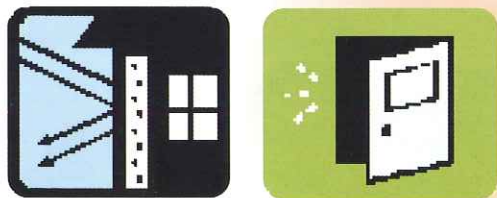
実は、放射線の種類や量によっては、何も影響がない場合もあるのです。

しかし、「放射線は体に悪い」というイメージから、放射線検査を受けたことで自分の体や子供の心配をされる人が意外と多いのではないのでしょうか…

そこで今回、放射線とはいったいどのようなものなのか、特性について簡単にご説明します。



## ①放射線の量は、線源から遠ければ遠いほど少なくなります。



## ②塀や壁などの遮へい物があると、放射線を防ぐことができます。

放射線科の壁には鉛が含まれています。撮影室のドアが重いのは、扉にも鉛を含んでいるからなんです。

## ③放射線に当たっていた時間が短いほど、放射線の量は少なくなります。

## ④放射線の量により、影響は異なります。

風でもそよ風なら何も影響はありませんが、強風では飛ばされそうになるほど影響があります。同じように放射線も少ない量なら影響はありません。



## ⑤放射線は当たったところにしか影響は現れません。

日焼けと同じように、放射線も当たったところにしか影響は現れません。また、放射線被ばくで損傷した細胞は再生するため放射線の影響は残りません。

## ⑥放射線はからだの中に蓄積されません。

放射性物質を飲み込んだり、傷口からからだの中にとりこまれたりしない限り、放射線に当たっただけの人から放射線がでてくることはありません。

## ⑦放射線被ばくと、放射能汚染とは違います。

放射性物質がからだに付いたことを放射能汚染といい、付いた放射性物質は洗い流すことができます。

## ⑧放射線による子孫への影響は確認されていません。

妊娠初期の胎児にある一定の放射線量を超えて照射された場合のみ胎児への影響が問題になります。男性や妊娠中でない女性に放射線が当たったとしても子孫へ影響が現れることはありません。



診療では患者さまの得る利益が大きい(診断につながる)と考えられる場合にのみ放射線(X線検査)を利用しています。診断のために使用される放射線の線量は僅かですので、安心して検査を受けてください。

私たちは日常生活の中で、一年間に自然界(宇宙線・大地・空気中のラドンなど・食物)から2.4mSvの放射線量を受けています。

検査で受ける放射線量はだいたい次の通りです。

胸部レントゲン 0.1 ~ 0.2 mSv

腹部レントゲン 1 ~ 3 mSv

CT検査 2 ~ 20 mSv

診療放射線技師 金子いずみ

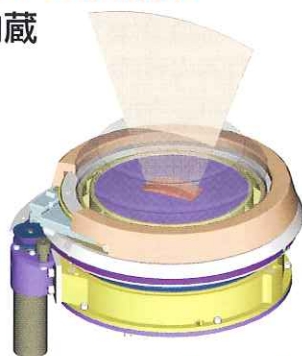
# 体外衝撃波による結石破砕治療(ESWL) ドイツのドルニエ社製最新ESWL装置 デルタIIファースト (2007年7月導入)

## 装置の特徴

### 〈世界初内蔵型超音波イメージング機能〉

#### 衝撃波発生装置内にエコープローブが内蔵

- ①超音波ドップラー機能を使い、衝撃波が有効に結石に照射されているかどうかリアルタイムで確認できます。
- ②X線に写りにくい結石でも治療を中断することなく結石の探査が可能です。



- ・お腹を切らずに治療できます
- ・腎・尿管どちらの治療も可能です
- ・1回の手術は1時間程度です
- ・数日の入院で治療が可能です
- ・副作用や後遺症の心配はほとんどありません
- ・再治療が容易です
- ・高齢の方や心臓病・糖尿病など合併症のある方も治療が可能です

### 〈装置の治療ヘッドが約240度可動〉

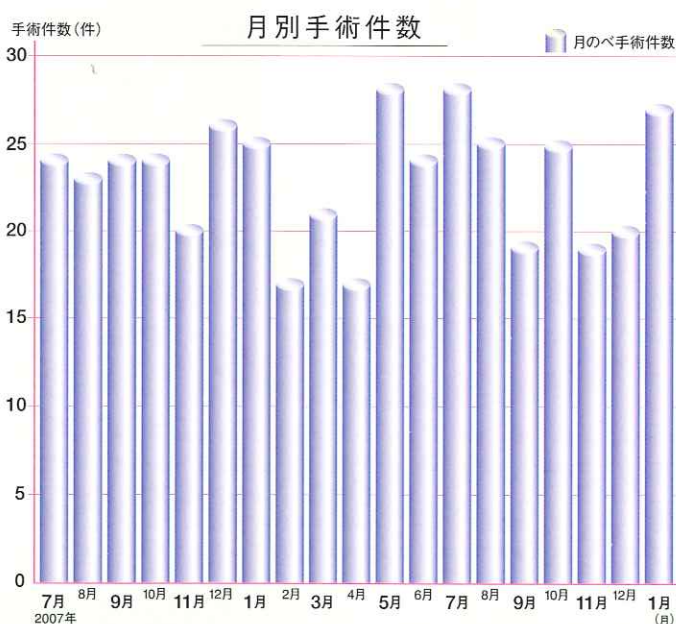
- ①患者さまがベット上で腹臥位になる必要が無く、治療中の体への負担も軽減できます。
- ②体への衝撃波の入射角度が容易に調整できます。この為組織障害が発生しにくいといわれています。



お仕事のお忙しい方でも、患者さまの状態や、術後の経過により日帰り治療も、可能です。お気軽にご相談下さい。

## 体外衝撃波による 結石破砕療法(ESWL)実績

1983年にドイツで医療機器として実用使用され、日本では1984年に導入され、その高い安全性と良好な治療成績により現在では腎・尿管結石治療における第一選択であり一般的なものとなっております。当院でも2007年7月より、最新型のESWL装置であるドルニエ社製デルタIIファースト(東日本初)を導入し、2009年1月現在のべ454症例のESWL治療を施行しております。今後もこの治療経験と実績を生かし、経験豊富なスタッフと共に患者さまの状態や発生部位、結石の種類、大きさ等に応じて、より安全で、迅速かつ有効な治療を心がけて参ります。



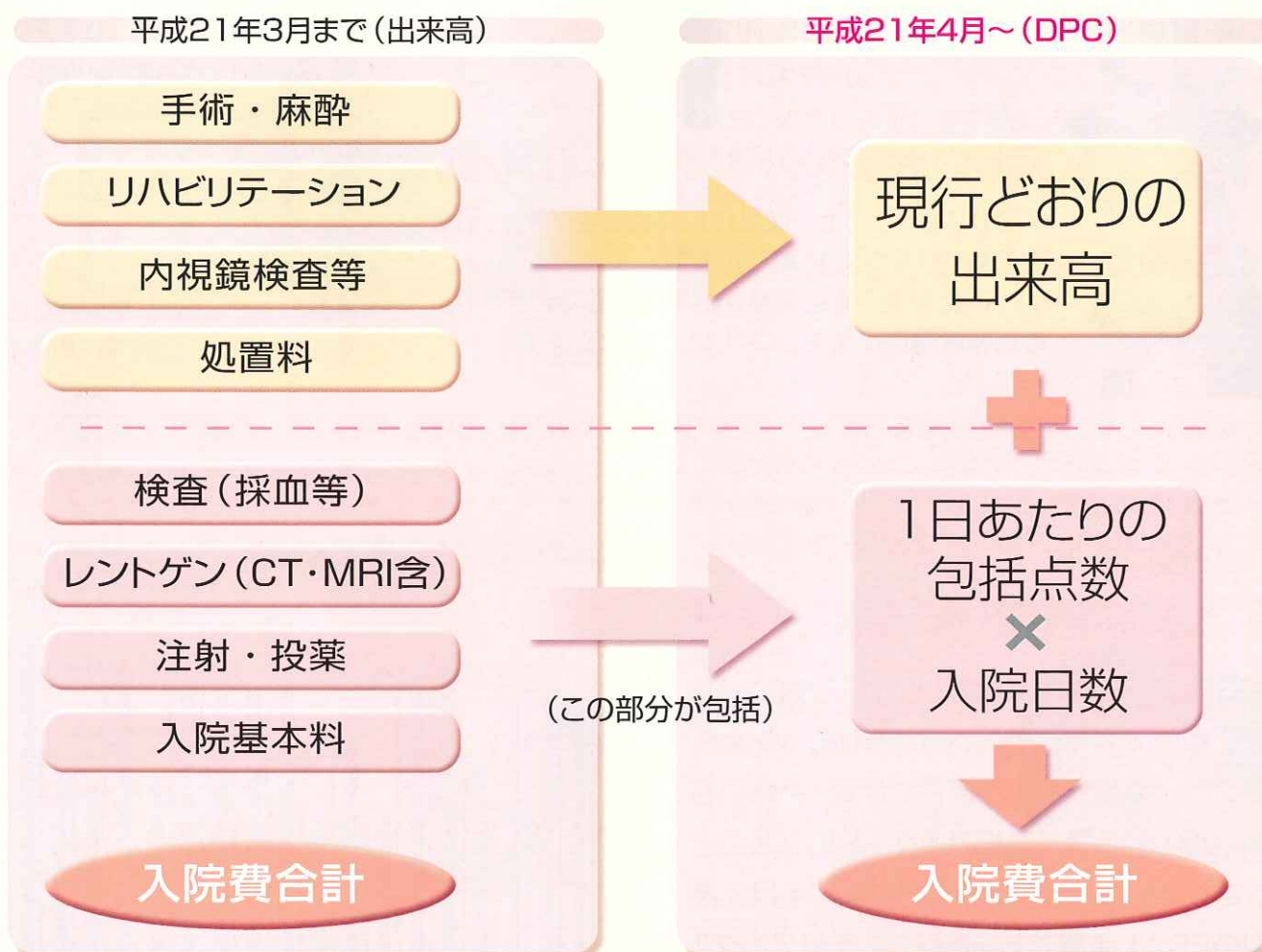
手術件数2007年7月～2009年2月迄：454件  
患者さま一人当たりの結石治療回数：1.12回

## DPC制度の導入について

当院に平成21年4月1日以降に一般病棟にご入院される患者さまにおかれましては入院医療費の会計方法が変わります。新しい会計方式は、入院医療費を包括評価による『診断群別定額払い (DPC)』と一般的に呼んでいます。この会計方式(DPC)は、平成15年度から大学病院や国立病院などの高度先進医療を行っている特定機能病院を対象に実施されておりましたが、厚生労働省の事前調査に協力してきた一般医療機関のうち一定の基準を満たした病院が試行する事になり、当院でも診断群別定額払い方式(DPC)による入院医療費の会計方式の導入が決定いたしました。

DPCとはDiagnosis (診断) Procedure (手技) Combination (組み合わせ)の略で患者さまの病名や症状をもとに手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省から定められた1日当たりの診断群分類点数をもとに医療費を計算する新しい会計方式です。

### ————— DPC制度の入院会計イメージ図 —————



※上記のように、手術やリハビリ等は、従来の請求と同じく出来高となります。  
また、検査・注射・お薬等は1日当たりの包括点数に含まれる事になります。

### 皆さまの声を聞かせてください!

イムス三芳総合病院では、よりよい病院づくりをすすめるため、患者さま・地域の皆さまのご意見を募集しています。ご意見は下記FAX、E-mailまたは院内総合受付横に設置のアンケートBOXまで。皆さまの貴重なご意見をお待ちしております。

FAX : 049-274-7016

E-mail : renkei.mkh@ims.gr.jp

イムス三芳総合病院 広報誌  
Plaza ims (プラザイムス) Vol.13 2009.4  
発行/イムス三芳総合病院 地域医療連携室  
発行日/2009年4月  
〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保266-1  
医療法人社団明芳会 イムス三芳総合病院  
TEL049-258-2323  
<http://www.ims.gr.jp/miyoshisougou/>